

活動報告（5月レポート）

担当：静岡県西部農林事務所 地域振興課

復活の「うなぎ米！」第1回浜名湖資源相互増進会議が開催されました

日時：令和7年5月19日（月）

場所：静岡県浜松市



：5月21日付け静岡新聞に掲載

：5月23日付け中日新聞に掲載

【第1回浜名湖資源相互増進会議の様子】

浜松市の浜名湖養魚漁業協同組合が中心となり、ウナギの養殖残渣を稲作の肥料として活用する「うなぎ米」プロジェクトが始動しました。

浜名湖ウナギ生産者はこれまで、親ウナギの放流を行うなど、積極的にウナギ資源保護活動に取り組んできました。近年、天然ウナギの生息域保全として水田が着目されており、ウナギ資源保護活動を継続的に行っていくため、農業と水産業の経済相互活性化を図る取組が模索されています。

浜名湖にほど近い浜松市浜名区細江町では、特別栽培米「細江まいひめ」が生産されており、水質や多様な生態系が認められ、水田環境鑑定特Aを取得しています。

今回、ウナギ資源保護活動に取り組む「浜名湖養魚漁業協同組合」と細江まいひめ生産者が連携し、ウナギの養殖残渣を混ぜた豚糞由来の堆肥を細江まいひめ生産者へ提供することで、循環型農業の仕組みづくりが検討されています。

5月19日（月）に、第1回浜名湖資源相互増進会議が開催され、取組内容の検討がされました。西部農林事務所からは「みどり認定」や「みえるらべる」の制度について情報提供しました。

今後は、オイスカ浜松国際高校と連携した親ウナギの放流や生物調査、「うなぎ米」を活用した新商品の開発等が検討されており、西部農林事務所では引き続きこの取組みを支援していきます。